

ひろば

「物性研究」にのぞむこと

小 谷 正 雄 （東大理）

“物性研究”が物性研究者の連絡誌として発行されることは大変嬉しいことです。研究連絡誌として企画される以上、いわゆる“物性論”として“確立”されている分野の内部に閉じたものでなく、物性論の周縁——そこには化学、生物学、地学、工学等の多くの問題が物性論との接触融合を待っている——に対して開いたものにしてほしいと思います。私自身はとくに生物学に近いところに関心があり、そういう所に物性論の一つの frontier があるように思います。基研で物性の将来の姿が討議されたこともきいておりますが、そういう討議記録なども載せてほしいと思います。

余談になりますが、私の属している東大理学部将来計画の中には、物理、化学、生物学というような看板に捉われず自由に新らしい研究の芽を育てることを主たるねらいとして総合研究センターという構想がありますが、物性は実はこういう所で実質的にかなり中心的な機能を果たすことを期待している次第です。

夏の学校に出席して

阿 部 龍 蔵 （物性研）

ひろばの一隅を拝借して夏の学校で感じたことを二、三書きしるしたいと思います。いささか古い話になりますが、8月1日から一週間程、長野県野